

家族の構造と転換

近代家族を考える

【事前課題】

下記の文章を 200 字程度で批判しなさい。批判できない場合は、「批判できない」と明記すること。もし「批判できない」明確な理由があれば、それも 200 字程度で記しなさい。

「一部の例外はあるが、古来、多くの地域・民族で父系制・男性優位（ときには一夫多妻制）の家族が広範に見られた。また家族内では男女の性別役割分業が明確で、女性の地位は低く、女性の役割は『跡継ぎ（男児）』を生むこととみなされがちであった。結婚は、個人の愛情に基づく選択ではなく、家柄・身分等に基づいてなされてきた。

しかし近代社会においては、婚姻の自由が認められ、個人の愛情・自己決定に基づく婚姻（恋愛結婚）が増加してきた。女性の社会進出・男女平等化も以前に比べれば進み、個人の自由な選択による多様な家族の形態も徐々にではあるが増加している。もちろん依然として前近代的・封建的な女性差別・性別役割分業は根強く残存している。また世界には近代化が不十分な国・地域も多数、残存している。

なお昨今、少子化が社会問題になっているが、これは個々の家族の構造に起因するものではない。むしろ前近代的な男女の役割分業が根強く残存し、またプライベートな家族とは別の公的な福祉（子育て支援等）の脆弱さに起因する問題である。

したがって、家族の一層の近代化、男女平等化、個人の自由な選択・自己決定に基づく多様な家族形態への寛容、およびそれに対する公的支援の充実が、重要な社会的課題である。」